

夢の宅配便

小田原市立城山中学校

学年主任 水野喜代治

「おままごと」にはしない！

小さいこどもの遊びに「おままごと」があります。泥を丸く固めてお団子にしたり、大きな葉っぱをお皿にして、木の実を盛り付けます。お母さん役の女の子に「喜代ちゃん、たくさん食べてね！」なんて真顔で進められるので、「いただきます。」と私は返事をして「むしゃむしゃ」と言いながら食べたふりをします。演技派の私は、食べ方が上手なので女の子たちは喜んで、「おかわりしてください。」と言っては、泥の団子を勧めてきました。このあたりで、「おままごと」遊びから撤退しないと次は赤ちゃんにさせられて、いじられるので、私は、よい加減で「おままごと」遊びから逃げ出すわけです。

だれもが、小さいときに遊んだ「おままごと」は、本物の世界ではありません。本物の世界をまねた遊びです。遊びの世界は、それでよいのですが、大人になってもやっていることが偽装である「おままごと」では通用しません。泥の団子では話にならないわけです。本物の団子を作らなければなりません。やらなければならないことをやらないで、やったふりをすると、「ちゃんと、やりなさい。おままごとではないんだよ！」と叱られたり、注意されたものです。仕事は、「おままごと」ではだめなのです。

今、図書委員会が朝の読書を充実させようという取り組みを行っています。朝読書の時間が充実することは、とても良いことです。読書をする習慣が身につけば読解力も高まります。ですから、朝読書の時間を充実する取り組みにだれも異論はないでしょう。しかし、本を持ってこないとか、本を読まないという生徒がいます。みんなで、読書の環境を作りたいので図書委員会が動いたわけです。5日間で本忘れや読書に集中できない人の人数が5人以内というという目標です。ところが、取り組み初日で5人の人が本忘れなどして、二日目には7人の人が取り組めなく、二日で12人ということで、何も取り組みが前に進まないで終わりました。明日から、再び図書委員会の取り組みが行われます。取り組みを「おままごと」にしないようにしていきましょう。本気に取り組んでほしいと思います。図書委員会にみんなで「協力」していきましょう。